

ホルムアルデヒド水溶液取り扱いマニュアル

人体への影響

- 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難が起こることがある
- 吸入すると中枢神経・呼吸器障害等の危険がある
- 高濃度で長期間曝露した場合、鼻腔・咽喉の発がんが生ずることがある
- 高濃度の液体が眼に入ると失明することがある
- 皮膚、粘膜に触れると、刺激・炎症症状を起こし、また、感作性(アレルギー)障害を起こすことがある
- 管理濃度：0.1ppm (この濃度で50%の人がホルムアルデヒド臭を感じる)



性質と危険性

- 無色、刺激臭のある気体で水に溶ける
- ホルムアルデヒドの37%程度の水溶液がホルマリンとして市販されている。ホルマリンには通常10%程度のメタノールが安定剤として入っている
- ホルムアルデヒドは可燃性・引火性のガスであるが、ホルマリン水溶液では引火性は低い
- 気体や蒸気は、熱、火花、高温体、たばこ等を着火源として、引火・爆発を起す
- 気体は空気より少し重く、低い場所に滞留する

容器などのラベルの表示やMSDSを注意して見ること

取扱い及び保管上の注意

ホルムアルデヒド水溶液の取扱い作業

- 作業を始める前にまず換気装置稼働する
- 当日の作業に必要な量だけを持ち込み、管理ノートに記録する。直射日光の当たらない涼しい場所に置く
- 容器は使用の都度フタをする。使用後の空容器は、フタをして定められた場所に置く
- ホルムアルデヒド等が付着したウエスや紙は二重フタ付き容器に入れ密閉する
- 床にこぼした場合は、大量の水で洗い流す
- ホルマリンの周囲では、溶接、研ま、その他、火の作業を行わない(たばこ、火気厳禁)



保護具は必要に応じて使用

- 有機ガス用防毒マスクを装着して作業を行う。保護眼鏡はゴーグルを用いる



ゴーグル形保護メガネ

有機ガス用防毒マスク

- 手で取扱う場合には、ホルムアルデヒドが透過しない専用の保護手袋を装着する



保護手袋

- 皮膚は露出しないようにし、ホルムアルデヒドが透過しない専用の作業衣又は保護衣を着用する。使用した作業衣等は作業場から持ち出し厳禁

作業主任者・衛生管理者に尋ねること

危険性



ガスは極めて引火性高い

強い眼刺激 皮膚刺激
皮膚感作性の恐れ
飲込むと有害

健康有害性



ガスを吸入すると生命に危険
皮膚に接触すると有毒

中枢神経系統等の障害
呼吸器感作性の恐れ
発がん性の恐れ



応急措置

- 吸入して気分が悪くなった場合
直ちに作業を中止し、新鮮な空気の場所に移動、休息させ、原則、医療機関を受診させる
- 意識不明・呼吸停止の場合
直ちに119番通報して医療機関を受診させる。呼吸停止の場合は直ちに人工呼吸を行う
- 眼に入った場合
まぶたをよく開けて、眼を水道水など流水で15分以上丹念に洗う。眼に刺激症状などがなくても眼科医を受診させる
- 皮膚・衣服等に付いた場合
汚染された衣服、靴を脱がせ、付着部位を石鹸水、温水でよく洗い、原則として皮膚科医を受診させる



すぐに医療機関に!!

火災時の対応

- 消火には、水の噴霧、粉末消火器、炭酸ガス消火器、耐アルコール性泡消火器を用いる
- 火災の際、刺激性、腐食性又は有毒性のガスを発生するので注意を要する
- 直ちに消防署(119番)に通報する



連絡先

社内の連絡先：

医療機関の名称：

☎(— —)

眼科医の名称：

☎(— —)

皮膚科医の名称：

☎(— —)

医療機関にはMSDSを持参させること